

平成 20 年度大学院教育改革支援プログラム

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

平成 21 年度 後期ガイダンス資料

奈良女子大学大学院

人間文化研究科

< 2009 年 9 月版 >

博士前期課程

国際社会文化学専攻

人間行動科学専攻

住環境学専攻

生活文化学専攻

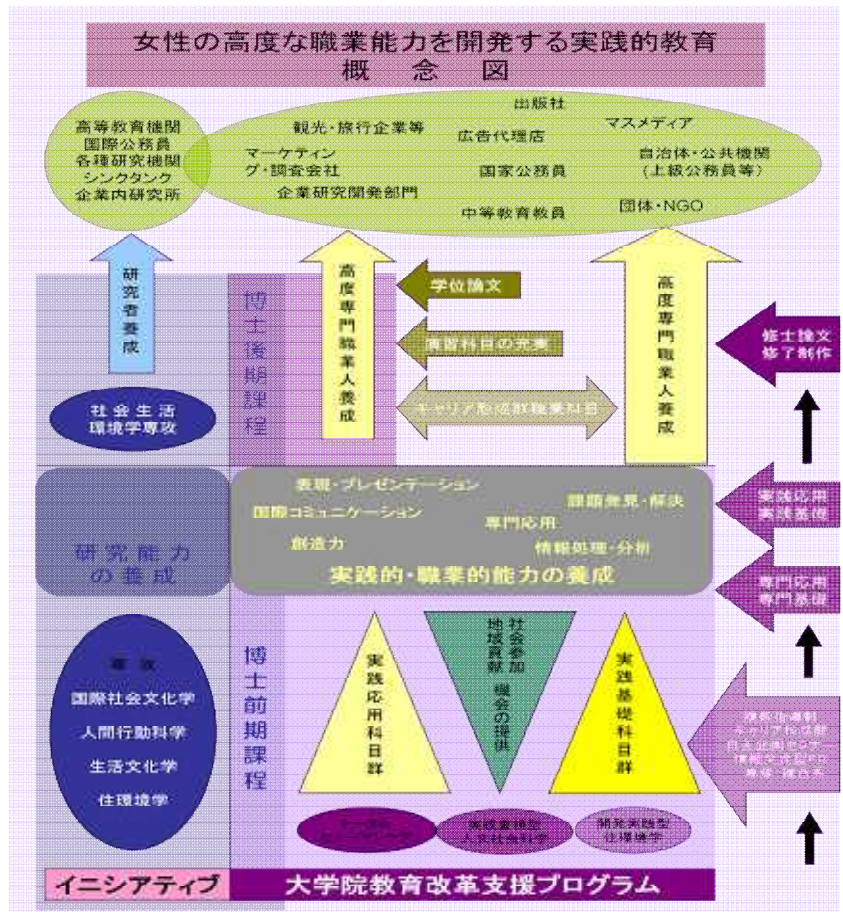
目次

このプログラムの目的と方針	
はじめに	1
本プログラムの目的	2
実施事業の概要	
自主活動支援事業・広報活動	3
カリキュラムと授業	4
関連する授業一覧	
研究マネジメント群およびキャリア形成科目群	5
各専攻授業一覧	
授業情報	6
学習支援体制と連絡先	
特任助教、大学院 GP（人社系）事務局	9

はじめに



プログラム代表
出田和久



本プログラムは「大学院教育振興施策要綱」（平成 18 年 3 月 30 日）の策定をうけてはじまった「大学院教育改革支援プログラム」として本年度採択されたもので、高度専門職業人の育成に資するように従来の教育カリキュラムに実習・実践的な側面を強化して実施するものです。本学大学院は研究者および高度専門職業人の育成を目指しており、既に研究者養成に重点を置いた教育プログラムである「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」（平成 17 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択）を実施しています。今回、本プログラムが採択されたことによって、高度専門職業人の育成についてもより体系的な教育プログラムが実施できることとなったといえるでしょう。

現代社会は技術革新が急速に進展する環境変化の激しい時代なので、一度獲得した新しい知識や技術も直ぐに陳腐化してしまいがちです。したがって、個々の具体的な技術やスキルの獲得は必要なことではありませんが、より一層求められることは、具体的な技術やスキルに接し、その経験を基礎として、新しい

課題に直面した時に、その解決のためにはどのような技術・スキルが必要であり、それをどのように応用するかを実践的に考える力（専門応用能力）を培うことといえるでしょう。そのために、調査やフィールドワーク、インターンシップ実習をカリキュラムに取り入れ、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成しようというものです。具体的には、従来の幅広い専門的知識と視野を獲得する教育のプログラムに、文化財の AV 機器による撮影・編集・記録のためのスキルを学んだり、身体や心の機能をトータルにとらえ評価するための人体機能計測をおこなったり、都市・集落・住居の環境を総合的に解析するフィールドサーベイを実施したり、様々な実習・実践的要素を加味したプログラムを加えて展開するものです。本プログラムを履修した修了生が、社会においてその力を存分に発揮し、真の男女共同参画社会の実現に貢献してくれることと期待しています。

本プログラムの目的

このプログラムでは、特に高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図るために、従来なかった実践的な授業科目をカリキュラムに取り入れ、大学院生の皆さんのキャリア形成を支援します。

総合的な実践的科目群を展開！

本プログラムの基本的な特徴は、歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成しています。

各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成します。

具体的で関心に密着した実践基礎群科目！

限定された課題や能力に関わる、比較的短期で展開する実践基礎群科目を強化・新設し、技術・技能の開発・伝達をめざし、学生の実践的な関心に応えます。これらの授業は、専任教員のみでなく、専門的な職域で深い知識や豊かな経験と能力を発揮している社会人や本研究科修了者をゲストスピーカーとして招くなど、多彩に展開されます。

専門的能力を磨き上げる実践応用群科目！

従来の演習科目の内容を充実させたり、あるいは新設したりして実践応用群科目を作り、1年次の後半から2年次にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行います。この科目群では、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学では得られない実践的かつ専門的能力の向上をめざします。

イニシアティブ事業を継承し、研究者にも！

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の2つの科目群について各々の授業の改善を図ります。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を充実させます。

学生の意欲的な自主活動をバックアップ！

さらに、自主的な研究会・セミナーや本学の地域貢献事業、たとえば地域女性リーダー育成事業などの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざします。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出します。

学生による自主的なセミナー開催を人的・経済的にバックアップし、学生個人の口頭発表や作品の発表を経済的に支援します。

評価方法の改善

この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とします。



住環境設計特論（H20年度）

* 博士後期課程について *

社会生活環境学専攻は、研究者及び高度専門職業人の養成を目的としており、上記プログラムを経て進学した学生について、より高度な実践的能力を開発します。社会のニーズに直結する実践的研究課題を追求する研究者や、専門知識を背景に組織を指揮・運営する女性リーダーをめざすよう促します。

このように、現地実習、フィールドワーク、インターンシップ、キャリア形成科目、及び住環境に関する演習科目などにより、専門応用能力、課題発見・解決能力、総合的判断力、の伸長へとつながる、受動型から能動型へと変貌を促す女性高度専門職業人育成プログラムを構築します。とりわけ女子大学という教育環境を活かし、実践的課題を志向する女性の能力・個性をのびのびと発展させ、本教育プログラムにおいてその個の力を社会的貢献に資する段階へと高めていきます。

実施事業の概要

自主活動支援事業

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援します。

院生自主企画支援

学生自身が関心を持つテーマについて研究会やセミナーを開催するために、講師の斡旋や交渉、運営などについてのアドバイスや、招聘する講師の方への謝金・旅費（近畿圏以外の場合について1泊分の宿泊費）の支援を行います。詳しい情報は掲示されるポスターや大学院 GP(人社系)ホームページ等をご覧いただくか、大学院 GP(人社系)事務局までお問い合わせください。

平成 21 年度後期実施分を募集します。募集要項をよく読んで、奮ってご応募ください

： 募集期間：

2009 年 9 月 30 日(水)～10 月 9 日(金) 17:00 迄

： 応募方法：

募集要項をよく確認の上、企画名称、企画者名と所属、企画概要（目的、開催予定日及び講師予定者など）、予算計画などの必要事項を規定の応募書式に記入して、大学院 GP(人社系)事務局（新 E 棟 154 室）に期日内に提出してください。

なお応募は複数名で協力して企画を実施できるグループ単位とし、各メンバーの役割分担を明記すること（企画者 1 名のみでの応募は認めません）。

募集要項・応募書式は、本プログラム HP よりダウンロードするか、事務局で入手できます。*

*平成 20 年度後期支援実績 : 4 件

*平成 21 年度前期支援実績 : 3 件

広報活動

大学院 GP(人社系)ホームページを開設しています

<http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

プログラムの活動、院生自主企画、研究成果公開助成などの情報を公開していきます。ニューズレター、メールニュースのバックナンバーも閲覧できるようにする予定です。

メールニュースの配信

ホームページと同様に TA・RA の募集や院生自主企画、研究成果公開助成などの情報をお届けします。また自主企画や授業の報告なども掲載します。

*メールニュースの配信は月 1 回（15 日頃）です。配信をご希望の方は、タイトルに「GP メールニュース配信希望」、本文に「名前、所属、配信先メールアドレス」をご記入の上、メールにて gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp までお送りください。次回分より配信させていただきます。

ニューズレターの発行

ホームページ、メールニュースと同様に、院生自主企画や授業報告などの情報を掲載していきます。発行は年 4 回程度の予定です。

バックナンバーは事務局で手に入るほか、ホームページでも見れるようにしていきます。

カリキュラムと授業

科目群とは

本研究科は、前期・後期両課程を通して、男女共同参画社会をリードする研究者および高度専門職業人の養成を目的として掲げています。このプログラムに参加する5専攻のカリキュラムは、この目的を達成するために下記のような科目群を設定し、キャリア形成を念頭においた科目選択を支援しています。

研究マネジメント群およびキャリア形成群

研究者あるいは高度専門職業人としての研究推進とキャリア形成に役立つ授業群です。2009年度入学者は二つの群から計2単位以上を、2008年度以前の入学者はそれぞれから1単位以上を、選んで受講してください。前期各専攻では、一部のインターンシップ専門実習など特別に相談が必要な場合を除き、専攻を超えて受講できます。

専門基礎科目群および専門応用科目群

各専攻において大学院修了者にふさわしい一般的能力の養成をめざす授業群です。

実践基礎科目群および実践応用科目群

高度専門職業人としてのキャリア形成のために、実践的に役立つスキルの修得をめざして開設された授業群です。

注意 インターンシップ専門実習および専門・実践の4科目群の各科目を、専攻を超えて履修する場合、指導教員および授業担当教員にご相談ください。

修士論文等の作成

修論のためには、研究結果を論文その他の形にまとめ、審査を受けることが必要です。学術論文に換え、あるいはそれに併せてなんらかの制作物等を提出する場合には、あらかじめ指導教員に相談してください。

	博士前期課程		修了必要単位数
研究マネジメント科目群	合計2単位以上	合計24単位以上 (住環境学専攻は20単位以上)	合計 3 2 単位 以上
キャリア形成科目群			
専門基礎科目群			
専門応用科目群			
実践基礎科目群			
実践応用科目群	合計20単位以上 (住環境学専攻は18単位以上)		
論文等作成	8単位(住環境学専攻は12単位)		

その他履修の仕方

*履修計画のたて方について

専攻毎に履修モデルを作成しています。ただしどの専攻も、分野が多岐にわたるため、あらゆるケースを網羅しているわけではありません。大学院進学のための目的と将来の進路設計を明確にして、指導教員のアドバイスを受けながら履修計画を立ててください。

*学部授業の受講について

学部のキャリア形成科目(教職科目も含まれます)は、受講制限を超えて履修できます(修了要件単位にはなりません)。必要なものを計画的に履修してください。

*授業への参加について

大学院では、どの授業でも学生の主体的な参加を前提にしています。インターンシップなど学外の社会人の方と接触する授業では学生としての謙虚な態度に配慮しつつ、積極的な学習活動を行ってください。

*カリキュラムや受講についての相談

社会人としての制約による必修授業の受講方法その他履修の仕方について、指導教員、授業担当教員の他、専攻の助教等にもご相談ください。

プログラムの改善について

本プログラムは、学生の皆さんのニーズに応えるために機動的に改善を図ります。どんな相談でも、プログラム全体の改善のために役立つので、遠慮なく適当な教員、特任助教、あるいは本プログラム担当の教務補佐(久保:文学系担当、道端:生環系担当、事務局常駐)にお伝えください。

関連する授業一覧

研究マネジメント群およびキャリア形成群

群	科目名称	単位数	開講期	時間割	備考	
博士前期課程	研究マネジメント群	専門応用英語	1	前期	不定期	
		専門応用英語	1	後期	不定期	
		プレゼンテーション演習	1	前期	火7・8	
		プレゼンテーション演習	1	後期	火7・8	
	キャリア形成群	女性専門職キャリア論	1	前期	集中	
		女性研究者キャリア論	1	前期	不定期	
		インターンシップ実習	1	前期	金7・8	企業訪問は不定期
		インターンシップ専門実習	1	前後期	集中	クラス分け開講（国際社会学）
	インターンシップ専門実習	1	前後期	不定期集中	クラス分け開講（人間行動科学）	

*インターンシップ専門実習については追加開講がある可能性があるため、掲示等に注意すること。

博士後期課程	研究マネジメント群	研究交流英語	1	後期	集中	
		研究プロジェクト演習	1	不定期		
		研究プロポーザル演習	1	後期	不定期	
	キャリア形成群	グローバル社会と女性の専門性	1	前期	集中	
		インストラクション法実習	1	不定期	集中	

各専攻授業一覧

実践基礎・実践応用群の一覧です。

専門基礎・専門応用群についてはシラバスか CAMPUS LIFE、または大学院 GP(人社系)ホームページをご覧ください。

専攻	授業科目	単位数	開講期	科目群	備考
国際社会文化学	文化史総合演習	2	前期	実践応用	
	Web情報実習	1	後期	実践応用	新設
	地域環境調査法	2	前期	実践基礎	新設
	GIS分析演習	2	後期	実践基礎	新設
	地域文化資源コンテンツ制作実習 A	2	前期	実践応用	新設
	地域文化資源コンテンツ制作実習 B	2	後期	実践応用	
	実践スキルゼミナール（社会調査）	1	前期	実践基礎	新設
	実践スキルゼミナール（古文書調査実習 A）	1	前期	実践基礎	新設
	実践スキルゼミナール（古文書調査実習 B）	1	後期	実践基礎	新設
人間行動科学	実践スキルゼミナール（スポーツ科学）	1	前期	実践基礎	（新設）「実践スキルゼミナール」（専門基礎群）から名称変更
	実践スキルゼミナール（心理学）	1	前期	実践基礎	新設
	実践スキルゼミナール（心理学）	1	後期	実践基礎	新設
	教育文化情報学実習	1	前期	実践基礎	新設
	臨床心理査定演習	2	後期	実践基礎	（新設）「臨床心理査定特論」（専門基礎群）から名称変更
	スポーツ情報学演習	2	後期	実践基礎	新設
	認知技能論演習	2	前期	実践応用	新設
	人体機能計測実習	1	後期	実践応用	新設
	スポーツビジネストライアル演習	2	後期	実践応用	新設
住環境学	フィールドサーベイ	4	集中	実践基礎	
	住環境学インターンシップ	7	集中	実践応用	新設
	住環境学インターンシップ	7	集中	実践応用	新設
	住環境設計特論	2	後期	実践応用	
生活文化学	比較生活人類学演習	2		実践基礎	
	生活経済システム論演習	2		実践応用	

授業情報

初回ガイダンス等の案内です。よく読んで、間違えないようにしてください。

研究マネジメント群およびキャリア形成群（前期課程科目）

専門応用英語	
担当	増井正哉 関口正也(非常勤講師)
時間割	10月17日、11月7日の2回、9:30 - 17:00を予定 *ガイダンス:10月2日(金)9・10限、場所は掲示
教室	10月17日(土)・F棟5階人間文化研究科会議室
概要	グローバル化する社会の様々な場面(ビジネス、学術、調査、研究等)で必要とされる実践的な英語活用能力の向上を目的とし、そのための各種スキルを講義と演習を通じて習得する。
履修上の注意	・履修希望者はガイダンスに出席すること(10月2日(金)9・10限、場所は掲示)。 ・エントリーメールをTAに送ること(chikae90@hotmail.com)
連絡先	エントリーメール宛先 chikae90@hotmail.com

プレゼンテーション演習	
担当	鍛冶幹雄
時間割	後期・後半・火曜日7・8限 12月8日、15日、22日、1月19日、26日、2月2日の6回
教室	E107
概要	学部卒論テーマ、専門研究テーマなど、15 - 20分/人程度(質疑応答含む)で2回程度の発表を経験する。受講者は自身の発表とともに、他の人の発表の討議に教員とともに参加する。 原則パワーポイントで発表。タイムキーパなど役割も分担する。
履修上の注意	発表テーマを10月31日までに教員あてメールで連絡のこと。 この後、TAより発表日程を連絡する。
連絡先	鍛冶 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp

インターンシップ専門実習(国際社会)	
担当	内田忠賢
時間割	・12月の週末2日間(終日) *ガイダンス 10月28日(水)12時20～50分 N339室 または、11月4日(水)12時20～50分 N339室にて
場所	新聞社オフィス(大阪府中央区) *詳しい日時・場所はガイダンス時にお伝えします。
概要	新聞媒体をとおして、ジャーナリズム、マスコミの仕事について、現場で学びます。ジャーナリストの心得、取材の方法、情報のまとめ方、分かりやすい文章のコツ、紙面づくりなどの基本を体得します。補助的講師は、朝日新聞記者OB(4名予定)。事前事後の課題・指導も行います。マスコミ系専門職(新聞記者、TV局記者など)を目指す方だけでなく、現代社会の情報を伝えるメディア系業種への就職を考えている方の履修を歓迎します。ただし、現場での実習は休日を使うこと、場所が学外(大阪市内)であること(交通費・昼食代は自己負担)、2日間で内容が完結するため両日ともに参加することを、お含みおき下さい。参加費・教材費は不要です。 なお、前期に開講した同科目と、ほぼ同じ内容を予定していますので、前期にご都合が付かなかった方の積極的なご参加をお待ちしています。

専門基礎・専門応用科目群、実践基礎・実践応用科目群（前期課程科目）

Web情報実習	
担当	佐原康夫
時間割	水曜5・6限
教室	コラボレーションセンター2F コンテンツ作成室
概要	「文化史総合演習」の成果をホームページで発信するために、HTMLの基礎を身に付けながら、実際にホームページを作成する演習。「文化史～」を受講していない学生も登録可。

地域文化資源コンテンツ制作実習B	
担当	武藤康弘
時間割	火曜9・10限
教室	N201
概要	よいコンテンツが作られるか否かは、しっかりした写真や映像が撮影できるかどうかにかかっています。撮影対象に応じたカメラやレンズの選択、撮影の構図、照明や音声など、デジタル一眼レフカメラやハイビジョンビデオカメラを使用しながら、撮影技術を基礎から実践的に学びます。同時に、パソコンを使用した撮影データの編集、ファイルの形式変換やDVDの制作についても学びます。詳しくは、それぞれのシラバスを参照のこと。
連絡先	武藤 muto@cc.nara-wu.ac.jp

実践スキルゼミナール(心理学)	
担当	山上雅子(非常勤講師)
時間割	10月8日、22日、29日 11月5日、12日、26日 12月3日、10日 (9:00 - 12:10)
履修上の注意	不規則開講で2コマ続き(9時から12時10分)の授業であること、実習が主たる内容で、ペアを組んでの実習となるため、遅刻欠席は授業に支障が出ることを十分留意下さい。

人体機能計測実習	
担当	藤原素子
時間割	月曜5・6限
教室	第2演習室
概要	この授業では、生体の生理機能や動作分析法を学び、測定スキルを習得することを目的としています。そして、それらの測定スキルの応用の可能性について考え、議論します。詳しくは、シラバスを読んで下さい。
履修上の注意	実習内容により開講時間が変則的になりますので、初回の授業に必ず参加して下さい。やむを得ず初回に欠席する場合は、事前に連絡をするようにして下さい(motoko@cc.nara-wu.ac.jpまで)。第2回以降は実習内容によって、場所が変わりますので注意して下さい。
連絡先	藤原 motoko@cc.nara-wu.ac.jp

比較生活人類学演習	
担当	佐野敏行
時間割	金曜1・2限
教室	D421(予定)
概要	最新の英語論文を、各自が人類学領域から数種類選び、それらについて各自が毎回の課題にそって報告・討論をし、論文の構成、読み方、書き方の基本を習得する。また、それを通して人社系の理論と方法論について学ぶ。
履修上の注意	専門的論文の読み方に関心を持つ者の履修を推奨する。予習復習の時間が必要ですが多くは必要ありません。他の学生の報告をきちんと聞くこと、関心を継続させて毎回出席することが、大切です。



インターンシップ専門実習(国際社会)(H21)



実践スキルゼミナール(心理学)(H21)



地域文化資源コンテンツ制作実習A(H21)

【予告：来年度開講授業】

インターンシップ専門実習(国際社会)	
担当	出田和久
概要	<p>H22年度前期に不定期集中で、「インターンシップ専門実習(国際社会文化学)」を開講する予定です。この授業は、文化遺産を対象とする研究調査の現場を経験することを通じて、文化財の研究調査への学問の応用と実践的な技術及び研究調査成果の社会への還元の可能性について理解を深め、修了後に社会において文化財保護等に貢献できる人材の養成に資することを目的とするものです。専門実習ですので、履修者にはこれまでに文化財保護にかかわる現場等での何らかの経験の有ることが求められます。</p> <p>具体的な実習の内容は、履修者の経験を踏まえて、履修者にとって望ましい適切な各種現場(発掘・整理等)を実地に経験できるように、履修者の希望も聞いたうえで、奈良文化財研究所の担当者の業務等の都合を勘案して決めることとなりますので、履修希望者は出田までメールで知らせて下さい。その際、文化財保護にかかわる現場等での経験について、「機関と場所(発掘現場であれば遺跡名)・どのような内容(発掘調査の補助、文書整理筆耕等)・期間」について知らせて下さい。</p>
連絡先	出田 ideta@cc.nara-wu.ac.jp

学習支援体制と連絡先

特任助教

授業・学習のサポーターとして、各専攻に特任助教を配置しています。
先生方の待機場所は各専攻で確認してください。

- ・村上由佳（国際社会文化学）
- ・池田曜子（人間行動科学）
- ・中迫由美（住環境学）
- ・姫茹（住環境学）

大学院 GP（人社系）事務局

教務補佐員が常駐しています。

機材・図書の貸し出し、GP 関連事業の各種受付を行います。また発行物のバックナンバーもこちらで閲覧できます。

大学院 GP（人社系）事務局

新 E 棟 154 室

開室時間 月～金、10：00～17：00（12：00～13：00 は休憩）

電話 0742-20-3523（内線）

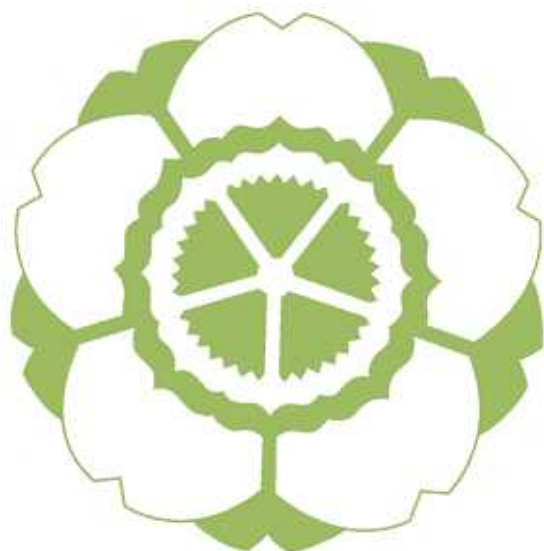
メール gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp

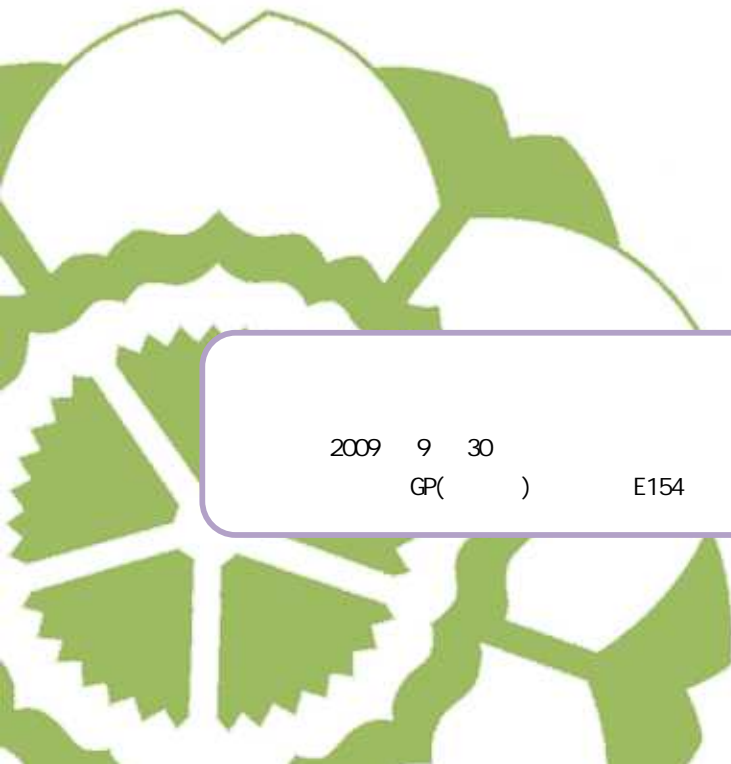
HP <http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

教務補佐員 道端良子、久保美知子

* 貸出可能機材：

- ・ノートパソコン（A4、B5 サイズ）
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・デジタルカメラ
- ・デジタルビデオ
- ・ポータブル MD レコーダー
- ・IC レコーダー
- ・卓上ベル
- ・プレゼンテーションリモコン
- ・ストップウォッチ





大学院教育改革支援プログラム「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」ガイダンス資料

発行 代表 出田和久

発行日 2009年9月30日

作成 大学院GP(人社系)事務局 (E154室、0742-20-3523)